

「あなたの運命を変える神のことば」 I テサロニケ 5：16～18

I 導入部

おはようございます。10月の第一日曜日を迎えました。今日も愛する皆さんと共に礼拝をささげることができますことを心から感謝致します。

5日の金曜日には、9月28日に天に召されました船越典子（ふみこ）姉の告別式が執り行われました。83年という尊い生涯でした。歌を愛し、賛美を愛した人生でした。歌が好きで、大学では声楽を習い、地域での合唱隊、教会での聖歌隊と、与えられた声の美しさと内にある神様への賛美の心が満ち溢れた人生でした。晩年は、体が弱くなり老人ホームでの生活でした。今まで歌をうたい続けてこられた姉妹から歌うことができなくなりました。思うようにならない日々の歩みの中でした。昨年9月には、愛するご主人を天に送り、寂しい1年間でしたが、家族に支えられ、教会の祈りに守られての1年、今までのように、その声を持って賛美できない状況の中で、心の中で歌い、魂からの賛美をささげ続けられたのではないかと思うのです。美しい声を通しての賛美も神様は喜ばれたでしょうけれども、日々老いて行く状況の中での、心での賛美、魂の讃美こそ、神様が最も喜ばれた賛美ではないかと告別式でお話しさせていただきました。

水野源三さん、幼い時に熱を出し、瞬き以外の事ができなくなった彼の詞です。「クリスマスを喜ぶ賛美歌を歌ったことがない。一度も声を出してクリスマスを祝うあいさつをしたことがない。一度もカードにメリークリスマスと書いたことがない。だけど、だけど雪と風がたたく部屋で、心の中で歌い自分自身にあいさつをし、まぶたのうらに書き、救いの御子の降誕を、御神に感謝し喜び祝う」船越典子姉の心境だと思いました。

皆さんに祈っていただきました創立50周年五島列島キリシタンの旅も、守られて、祝福された旅となりました。最初から最後まで神様の導きを感じる旅でした。9月30日は、台風の影響で、次の日はどのようになるのかと参加者の方々は感じたでしょう。幸い、台風は通過して、天気も守られてのスタートとなりました。台風の影響で、道路が閉鎖になったり等で、心配しましたが、22名無事に羽田に到着して、福岡空港へ飛び、福岡から便を乗り換えて、五島の福江に到着しました。南国情緒豊かな雰囲気です。旅の始まりに期待が高まりました。世界遺産に登録された教会堂をたくさん見て回りました。それぞれの教会には特徴があり、信徒の方々の会堂建設を通しての神様に対する信仰を垣間見ました。また、世界遺産は、素晴らしい会堂が登録されたのではなくて、潜伏クリスチャンたちの迫害の中であっての信仰が世界遺産として登録されたのです。長崎から五島列島という島に、信仰を守るために移住し、そこでひたすら信仰を守り、迫害の中にあっても、信仰を守り通した、神信仰を感じながら、自分の信仰と比べながらの旅でした。帰りは、帰り

で台風の影響がありましたが、何とか帰ることができました。行きも帰りも1日ずれていたら、この旅は大変な事になっていました。皆さんのお祈りを心から感謝致します。

さて、今日は、2018年度の青葉台教会の聖書の言葉になっております、第一テサロニケの信徒への手紙5章16節から18節を通して、「**あなたの運命を変える神のことば**」と題してお話し致します。

II 本論部

一、神が私たちに求めておられること

今日の聖書の箇所には、3つの動詞があります。「喜ぶ」「祈る」「感謝する」です。この動詞は、神を信じる者の日常生活に必要な事柄だと思えます。特に、クリスチャンの方々は、神様が共におられることを喜びとし、日々神様との交わりである祈りをささげ、神様の与えて下さる祝福を感謝する日々を送っています。あるいいでは、私は、喜び、祈り、感謝をささげて生きています、と誰もが語ることができますでしょう。

しかし、パウロは、「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」とテサロニケ教会の人々に言いました。いや、この聖書を読む私たちにも、神様の声として語られているのです。「喜ぶ」「祈る」「感謝する」ということでは、いいことがあれば、喜ぶ。祈れる時には祈る。恵みや祝福があれば感謝することができるでしょう。ですから、日常の生活の中で、そのことはできていると言える私たちでも、「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」となると、「いつも喜ぶ」「絶えず祈る」「どんなことにも感謝する」となると、果たしてどうなのか。できていますと言うことができるのでしょうか。

詳訳聖書を見ると、「絶えず（いつも）（自分の信仰によって）幸福でありなさい（喜んで、楽しい心でいなさい）。たゆまず祈り（忍耐強く祈り）なさい。万事について（神に）感謝しなさい。（環境がどのようなであつても、感謝深くあり、感謝をささげなさい。）」とあります。リビングバイブルには、「いつも喜びにあふれていなさい。いつも祈りに励みなさい。どんなことがあつても、感謝を忘れないように。」とあります。

聖書通りに起きるのは難しいなあと思われるかも知れません。ただ、「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」となると言葉上、困難を覚えます。しかし、この3つの動詞は、18節にある「キリストイエスにおいて」という言葉が大切なのです。ですから、「キリストイエスにおいて、いつも喜んでいなさい。キリストイエスにおいて、絶えず祈りなさい。キリストイエスにおいて、どんなことにも感謝しなさい。」ということです。私たちの力では、経験では、頑張りではとうていできない事柄です。では、「キリストイエスにおいて」とはどういうことなのかを見て行きましょう。

二、主にあつてどんなことにも感謝する

テサロニケの信徒への手紙を書いたパウロは、フィリピの信徒への手紙4章4節では、「主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。」と書いています。パウロは、フィリピの信徒への手紙を書いている時、獄中におりました。その中で、「主において常に

喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。」と書いたのです。彼は、ある程度の自由はあったものの、24時間監視され、自分の思うようにならない状況でした。けれども、彼は、喜びを自分のものとしたのです。自分のようなクリスチャンを迫害し、イエス様に敵対した者に出会って下さり、救って下さり、イエス様の福音を語る者として下さったという神様の愛と恵み、憐れみを深く感じていました。どのような困難や苦しみが彼を襲おうとも、彼は、喜ぶことができたのです。牢獄されていることや監視されていること、自由にならないことを喜ぶのではなく、そのような困難の中にあっても、イエス様の愛のゆえに、恵みによって喜ぶことができたのだと思うのです。

「**絶えず祈りなさい**」という原語のギリシア語は、「**隙間なく**」という意味があるようです。この「**隙間なく**」という言葉は、古代ローマにおいては、例えば「しつこい咳に苦しめられている人」を表現する時に使われたそうです。礼拝中に咳をしないようにするでしょう。静まった時、咳をしないようにと考える。そのように咳のことを常に意識することです。トイレの近い人は、そのことを気にします。五島の教会は階段が多くありましたが、私は坂や階段を上るたびに、降りるたびに膝を意識したのです。このように常に意識する状態を「**絶えず**」というのです。ですから、「**絶えず祈りなさい**」というのは一秒も休まず祈り続けなさいという意味ではなく、主の臨在を、神様をイエス様を常に意識していなさいということなのです。私たちは、心に心配がある時、祈るのではないのでしょうか。私たちの人生には、困難や苦しみは必ず起こります。その時の反応は、祈りなのです。

「**どんなことにも感謝しなさい。**」とパウロは言いました。それも、主にあってです。どんなことともという言葉の中には、苦しい事も悲しい事も、嫌な事も悪い事も含まれます。そのこと自体感謝できる人はいません。主にあって感謝ができるというのです。

ジョン・クワン師が書かれた「一生感謝 365日」という本の中には、すべての感謝の基本ということで、次のように書かれてあります。「**幸せは持っているものに比例するのではなく、感謝に比例する。自分の人生のすべてのことを感謝だと感じられれば、それに比例して幸せも大きくなる。**」と。私たちの苦しみの中に、困難の中に、絶望を経験するその中に、イエス・キリスト様が共におられるということです。私の悲しみを、ご自分の悲しみとされるのです。私の嘆きをイエス様の嘆きとして下さるのです。それ以上に、私たちの罪を赦すために、十字架の上で、十字架にかけられ尊い血を流し、命をささげて下さったお方が、困難と苦しみの中にある私を守り導いて下さるので、この「**キリストイエスにおいて**」感謝することができるのだと思うのです。

三、苦しみの中にあつて信仰を貫いたクリスチヤンの足跡をたどつて

五島列島クリスチヤンの旅は、潜伏クリスチヤンの方々の迫害の歴史をたどるものでした。また、報告会をさせていただき、その時には詳しいお話しができると思います。長い間、日本にはクリスチヤンがいないだろうと思っていた宣教師は、ある時、「**私の心はあなたの心と同じ**」という言葉聞いて、クリスチヤンが日本にいることを発見します。この発見はまた、クリスチヤン迫害につながるものでもありました。聖書の神様を信じるクリスチヤンたち

は様々な拷問を受け、信仰を捨てることを強制されますが、彼らの信仰は篤いものでした。自分の命を犠牲にしても信仰を守り抜きました。また、子どもたちや弱い者を守るために、信仰を捨てるわけではありませんが、踏み絵を踏んだり、信仰を捨てると言った人々もいました。その人たちの思いや心をイエス様はご存知でした。

この度は、奈留島にある江上天主堂（教会）に行きたい、という私の願いから始まりました。私の思いを岩淵兄が汲んで下さり、実現に至りました。江上天主堂へは、福江島から舟での移動でした。森の中にひっそりと建つ教会でした。江上集落の中にあるので江上と言う名がつけられ、教会の下には江上小学校がありました。江上橋と言う橋もあり江上づくしで、江上である私はとてもうれしく、私の4人の兄弟に写真を送りましたら、江上が有名だねと喜んでいました。

舟を降りた所で、中井姉がこけて、膝から出血されました。なかなか血が止まらないので江上天主堂の近くの住んでおられる一軒だけのお宅にお水をいただきお世話になりました。中井姉の足に流れる血を見た時、潜伏キリシタンの血、迫害を思わされました。江上という名前と同じと言う単純な思いでの始まった旅でしたが、そこには多くの神を信じる者の血が流されたことを思わせると同時に、私の罪のために十字架で流されたイエス様の血を思いました。カトリック教会を訪問する度に、はりつけにされたイエス様の十字架を見ました。殉教していった人々は、迫害の中で、拷問の中で、苦しみの中で、イエス様を信じる信仰を持ち続けました。五島という日本の端にいる自分たちの事は誰にも分からないだろう。知られないだろうと思ったのかも知れません。しかし、今、教会堂ではなく、キリシタンたちの信仰が世界遺産として登録されたのです。そして、日本中、世界中に彼らの信仰が明らかにされ、現代のクリスチャンである私たちに、信仰をもう一度考えさせる機会となっているのだと強く感じました。神様は、誰も私たちの苦しみはわからないと私たちが感じたとしても、イエス様は覚えていて下さるのです。その時ことのゆえに、「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」ということを実行したいと思うのです。そして、このみ言葉は、神のことばは、私たちの人生を、運命をも変えるものとなるのです。

Ⅲ 結論部

キリストイエスにおいて、「いつも喜び」「絶えず祈り」「どんなことにも感謝する」ことが、神様が私たちに望んでおられることなのです。私たちのために命をささげられたイエス様は、尊い血を最後の一滴まで流して下さったイエス様は、私たちを愛し、私たちを守り、私たちを導いて下さるのです。イエス様の流された血、ささげられたイエス様の体を覚えて、今日の世界聖餐日の聖餐の恵みに預かりたいと思います。

この週も、どんなことが待っているのかわかりません。しかし、神様が私たちに望んでおられるように、「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」ということを実行したいと思うのです。